

統合分野

授業科目	看護管理		対象学年・時期	3年次・前期
			単位数	1
			時間数	15
講師名	看護師2名		担当時間数	14
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 看護管理の目的と機能について理解できる。 2. 組織の一員としての看護師の役割や行動が理解できる。 3. 看護を経営的・経済的側面から考える。 4. 看護職のとしての生涯教育を考える。			
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態及び教室	
1回	1. 看護とマネジメント 2. 看護ケアのマネジメント	1) 看護管理とは何か 2) マネジメントとは何か 1) 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2) 患者の権利の尊重	講義	
2回	2. 看護ケアのマネジメント	3) 安全管理 (1) 安全管理のしくみ (2) 医療安全対策 4) チーム医療 (1) 看護職の責任と役割 (2) 他職種との連携・協働 5) 看護業務の実践	講義	
3回	3. 看護サービスのマネジメント	1) 組織目的達成のマネジメント (1) 看護の組織化 2) 看護サービス提供のしくみづくり 3) 人材のマネジメント	講義	
4回		4) 施設環境・物品のマネジメント 5) 情報のマネジメント	講義	
5回		6) リスクマネジメント (1) 災害対策 7) サービス評価	講義	
6回	4. 看護を取り巻く諸制度	1) 保健医療福祉政策と最近の動向 2) 政策と制度と看護サービス	講義	
7回	5. マネジメントに必要な知識と技術	1) 組織経営と倫理 2) 労働管理	講義	
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 統合 看護管理 看護の統合と実践① (医学書院)			
参考文献				

授業科目	医療安全 (医療安全管理)		対象学年・時期	3年次・前期
			単位数	1
	時間数	30		
講師名	看護師		担当時間数	23
			テスト時間	1 (45分)
学習目標	1. 医療における安全管理（リスクマネジメント・セイフティマネジメント）の必要性を理解する。 2. 医療事故の事例を基に、事故の原因・誘因、事故後の対応について考察する。			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態及び教室
1回	1. 医療事故・医療安全を学ぶ意義	1) 医療安全を学ぶ大切さ		講義
2、3回	2. 事故防止の考え方	1) 医療事故と看護業務 2) 看護事故の構造 3) 看護事故防止の考え方		講義・演習
4、5、6回	3. 診療の補助業務に伴う事故防止（患者に投与する業務における事故）	1) 業務特性からみた患者に投与する業務の事故 2) 注射業務と事故防止 3) 注射業務に用いる機器 4) 輸血業務と事故防止 5) 内服予約業務と事故防止 6) 経管栄養業務と事故防止		講義・演習
	4. 診療の補助業務に伴う事故防止	1) チューブの管理		講義
7、8回	5. 療養上の世話における事故防止	1) 療養上の世話における2群の事故のとらえ方 2) 転倒・転落事故防止 3) 誤嚥事故防止 4) 異食事故防止 5) 入浴中の事故		講義
9回	6. 業務領域を超えて共通する間違いと発生要因	1) 業務領域をこえて共通する患者間違い 2) 間違いを誘発する多重課題、タイムプレッシャーと業務途中の中断 3) 新人特有の危険な思い込み行動パターン		講義
	7. 医療安全とコミュニケーション	1) 事故防止のための医療者間のコミュニケーション 2) 事故防止のための患者とのコミュニケーション		
10回	8. 医療事故安全対策の展望	1) 組織としての安全対策 2) 国内外における安全対策と国際的連携		講義
11回	9. 医療事故の事例に基づき、事故の原因…誘因の分析	1) 事例－チームステップス		演習
12回 (45分)	10. 分析の共有化	1) 演習の発表		演習
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 統合 医療安全 看護の統合と実践② (医学書院)			
参考文献				

授業科目	医療安全 (感染管理)		対象学年・時期	3年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師 2名		担当時間数	6
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 医療事故の観点から、院内感染予防策及びスタンダードプリコーションを理解する。			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態 及び教室
1回	1. 感染防止の技術	1) 感染防止の基礎知識 2) 標準予防策 3) 感染経路別予防策		講義
2回	2. 感染予防の技術 の実際	1) 針刺し事故防止		講義
3回		2) 中心静脈カテーテル等の関連感染対策		講義
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 統合 医療安全 看護の統合と実践② (医学書院)			
参考文献				

授業科目	災害看護		対象学年・時期	3年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師3名・非常勤講師		担当時間数	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 災害の定義及び災害医療の概要を理解する。 2. 災害サイクルにおける保健福祉医療ニーズや活動の場に応じた看護を理解する。 3. 我が国における災害対策と災害救助活動をとおして、国際協力の必要性を理解する。 4. 災害看護の実際をシミュレーションをとおして理解する。			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態及び教室
1～2回	災害医療の基礎知識	1) 災害の定義 2) 災害の種類と健康障害 3) 災害医療の特徴 4) 災害と情報 5) 職種間・組織間連携 6) 災害看護と法律 7) 我が国の災害対策と国際協力		講義
3～5回	災害看護の基礎知識	1) 災害看護の定義 2) 災害看護の対象者 3) 災害看護の特徴と看護活動		講義
6～7回	災害サイクルに応じた活動現場の災害看護	1) 急性期・亜急性期(初動体制 トリアージ) 2) 慢性期・復興期・静穏期		講義
8～9回 10回(45分)	被災者特性に応じた災害看護	1) 子ども・妊産婦・高齢者・障害者・精神障害者 慢性疾患患者・在日外国人に対する災害看護 2) 災害とこころのケア 被災者・遺族・被災救援者のこころのケア 救援者のストレスとこころのケア 3) 災害看護の特徴と看護活動		講義
11～15回	災害時の看護の実際	1) トリアージ 2) 搬送 3) 応急処置		講義・演習
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 統合 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ 医学書院			
参考文献				

授業科目	国際看護		対象学年・時期	3年次・後期
			単位数	1
			時間数	15
講師名	非常勤講師		担当時間数	14
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 国際社会における看護の役割を理解する。 2. 看護職としての諸外国との協力のあり方を理解する。 3. 国際社会における医療福祉の現状を理解する。			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態及び教室
1回	国際看護学とは	1) 世界の健康問題の現状 2) 国際看護学の定義 3) 国際看護学の対象 4) 国際看護学に関連する基礎知識		講義
2～3回	グローバルヘルス 国際協力のしくみ	1) グローバルヘルス 2) 国際救援・保健医療協力分野で活躍する国際機関 3) 国際救援の調整 4) 開発協力		講義
4回	文化を考慮した看護	1) 文化を考慮した看護理論 2) 日本における文化や制度を考慮した在留外国人への看護の実践		講義
5回	国際看護活動の展開過程	1) 情報収集とアセスメント及び問題の明確化 2) 計画 3) 実施 4) 評価		講義
6～7回	開発協力と看護	1) 開発途上国と看護 2) 開発途上国における国際看護の展開		講義
	国際救援と看護	1) 近年の世界における災害と難民・国内避難民の現状 2) 国際救援活動の基本理念 3) 国際的な災害救援および復興支援にかかるガイドライン 4) 近年の特徴的な災害・紛争救援活動の概要 5) 国際救援における看護の展開 6) 21世紀の国際協力の課題		講義
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 統合 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ 医学書院			
参考文献				

授業科目	臨床看護技術演習		対象学年・時期	3年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師 ★		担当時間数	30
			テスト時間	課題評価
学習目標	<p>1. 基礎分野から専門分野Ⅱまでに学んだ看護の知識・技術をもとに、複合した治療処置、生活援助技術を必要とする対象の援助を考え、技術を実践する。</p> <p>2. 患者の看護の優先度および複数患者の看護の優先度を考えることができる。</p> <p>3. 自己の看護技術の到達状況と課題を明確にする。</p>			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態及び教室
1回	統合分野の位置づけと本科目の概要	看護の仕事とは 1) 現在、考える看護の仕事とは何か 2) 看護師として働くとは 3) 複数患者を受け持つための情報収集・管理 4) 1日のスケジュールの立て方と業務時間の管理		講義
2～4回	複数患者の看護	課題 1) 患者A・Bそれぞれの状態 2) 患者A・Bそれぞれに必要な看護 3) 患者A・Bそれぞれに必要な看護の優先順位 4) 患者間における優先順位とその理由 5) 報告・連絡・相談の必要性 1)～5)についてグループワーク		演習
5回		発表とまとめ		演習・講義
6回	複数患者の多重課題の看護実践	1) 多重課題の危険性 2) 多重課題発生時の対処の原則 3) とるべき行動と優先順位、またその理由 課題事例をもとに考える		講義 演習
7～10回		課題の実施・評価		演習
11～15回	看護技術演習	課題 複合的な援助を要する患者への援助 1) 必要な援助方法を考える 2) 演習計画の立案 4) 計画に基づいて、必要な援助を実施 5) 評価		演習
評価方法	レポートおよび課題			
テキスト	系統看護学講座 統合 看護管理 看護の統合と実践① (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅰ 看護学概論 基礎看護学① (医学書院)			
参考文献	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ (医学書院) 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 (医学書院)			